

ダイコン

原産地は、地中海岸。日当たりと排水性のよい場所を好むアブラナ科野菜
多くの品種があり、長さ、太さもたくさんある。
ダイコンの色も白色以外に、赤、緑、紫、黄、黒などがある。

栽培ポイント

- ・肥料の固まりが残らないように、よく耕し、小石などがある場合は取り除く。
- ・春と秋でそれぞれ作型に合った適切な品種を選ぶ。 *無理な種の早まきはしない。
- ・日当たり、水はけの良い圃場を選ぶ。 *水はけが悪い場合は、畝を高畝にする。

栽培カレンダー (収穫まで約40~100日)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般地				○—○		□—□			○—○	□—		
	○ 播種			□ 収穫								

栽培手順

1.土づくり

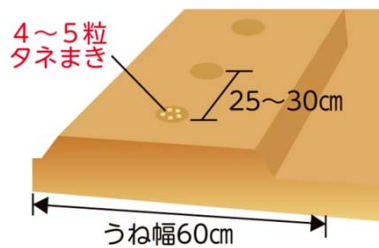
- ・酸性土壌を嫌うため、播種の2週間前には苦土石灰を散布して耕しておく。
- 1週間前には堆肥、元肥を散布。
- ・畝は、高さ10cm、幅60~70cm

元肥	完熟堆肥		100kg
	苦土石灰		12kg
	BMようりん		6kg
	燐硝安加里	16-10-14	8kg
追肥	化成	8-8-8	2kg

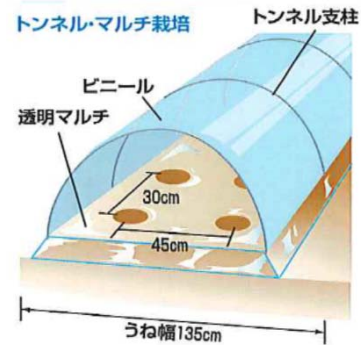
施肥例 (100㎡)

2.播種

- ・種は直まきをします。
- ・空き缶や空ビンの底を使い株間30cm、深さ1cmでまき穴をつくる。
- ・1穴に5~6粒ずつ種をまき、覆土して手のひらで軽くたたいたあと水をたっぷりとする。



(参考:タキイ種苗)



本葉7枚以降は、昼間の温度が30℃以上にならないようにトンネルのすそを開け、換気する。25℃を目安にする。収穫が近くなると20℃ぐらいに下げる。

抽苔を防ぐには保温資材が大切

マルチによる保温性は、**露地<白黒ダブル<シルパー<黒<グリーン<透明**の順番で高くなり、抽苔の危険性が低くなります。また不織布のベタ掛けも保温効果が高くなります。さらに保温性が高いのはトンネル、ハウス栽培となります。夜間の地温を高く維持できるほうが、良いものを収穫できます。トンネル、ハウスの容積を大きくし、火副資材をより保温性の高い素材に変えるとさらに秀品が期待できます。

(参考:タキイ種苗)

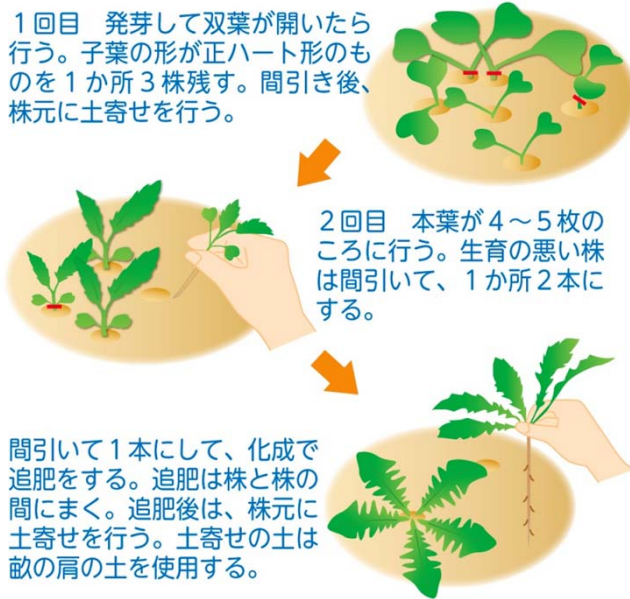


ダイコンのトンネル栽培

3.間引き

- ・1回目 発芽して双葉が開いたら行う。形の良いものを1か所3株残す。間引き後、株元に土寄せを行う。
- ・2回目 本葉が4～5枚のころに行う。生育の悪い株は間引いて、1か所2本にする。
- ・間引いて1本にして、化成で追肥をして下さい。追肥は株と株の間にまいて下さい。追肥後は、株元に土寄せをして下さい。土寄せの土は畝の肩の土を使用して下さい。

ダイコンの根の長さは生育初期でおおよそ決まります。本葉5～6枚までの生育初期に適湿に管理し、順調に肥効を進めることで、生育が促進されることが期待できます。



4.収穫

- ・根茎が7～8cmのものが理想。
- ・春ダイコンは、収穫が遅れると中が黒くなることがあるので早め早めの収穫をオススメします。
- ・秋ダイコンは、春先になると、とう立ちしてしまうので、それまでに収穫を終えてください。